

平成 24 年度 第 2 回文系チャレンジ講座を実施しました

第 2 回文系チャレンジ講座が、2012 年 6 月 20 日、「統計について考える」をテーマとして、本学経済学部の西村善博教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・安心院(あじむ)・日田の 5 校(146 名)と、来学した高田・佐伯豊南の 2 校(27 名)を合わせて、計 173 名の高校生が受講しました。

今回の講座は「統計と聞いて何を連想するか」という質問から始まりました。受講生の答えは「計算」や「数字」といったものが多く、「統計は難しい」と考えている高校生が多いことがわかりましたが、講師の西村教授がそうした先入観を徐々にほぐしていきました。

西村教授は、大分県の人口を例にして、国勢調査について説明しました。国勢調査とは、国から委託を受けた市民が調査員となって、国民生活について地道な調査を行うものです。先頃、戸籍上は生存しているが所在が確認されていない 100 歳以上の高齢者が 31 万人以上もいることが報道されましたが、こうした所在不明の高齢者問題は、役所に届けられた住所と実際の住所が違うことが原因となって生じていることがわかりました。

次に、平均出生率が取り上げられ、女性が出産できる年齢は、統計上、15 歳～49 歳に限定されていることや、出生率の低下や未婚者の増加などについて説明がありました。

今回の講座を通じて、住民が調査に協力すれば統計の誤差が小さくなることや、統計が実際と異なる場合があります。統計解釈は慎重に行う必要があることなどを受講生は感じ取りました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(86%：「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(94%)、「授業内容はわかりやすかった」(79%)、「板書(スライド)は適切だった」(85%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(89%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(73%)、「映像はよく見えた」(81%)という結果がでました。

受講生の具体的な声として、「他校の生徒と受講でき新鮮だった」「統計の意味を考えるきっかけになった」「穴埋めや書き込みができる資料でわかりやすかった」「少し難しい内容があったが、大学の授業を体験でき、先生の真剣さが伝わってきた」など多くの感想が寄せられました。統計を通して社会の動きを細かに見ることの大切さを受講生が理解した講座でした。

